

「遣わしたのは、実に神なのです」創世記45：1－15 12・8・5

I ヨセフ物語のクライマックス。自分の兄弟達によってエジプトに売られてきたヨセフは、すぐには正体を明かさずに、兄達を試し、心の変化を伺う。兄達が、かつて自分にしたひどい仕打ちを悔いている事を知り始める。彼らがその罪責に苦しんでいる様子を目の当たりにする。兄達は単に良心の責めを感じるだけではなく、すべてを見、知っておられる神にさばかれている事を感じている。解放されて、自由になりたいと願っている。昔自分を売り飛ばしたあの兄達のままではない。ユダが、今、自分の目の前で弟のベニヤミンをかばって、身代わりとしてエジプトの奴隷になるとさえる。神に取り扱われている兄弟達。 II ヨセフのここまでの気持ちと変えられた姿。兄弟達に穴に放り込まれ、銀20枚で売られた時、17歳。不当な扱いへの特別な感情があったことだろう。しかし、それによって、くよくよしていなかった。彼はそこでの生活に忠実に臨んだ。主は彼と共におられた。人を赦さないという心に縛られている人生は幸いではない。憎しみと復讐の思いは聖くない。それは、悪魔の巧みな手口。「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず」(I コリ13：4, 5)とある。ヨセフも、欠点があったが、神の愛による訓練により、このような愛の人へ変えられて行った。神は、私達も愛による御訓練により変えられ続けられる。「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことは私たちにゆだねられたのです」(II コリ5：19)。ヨセフはついに兄弟達に自分の身を明かす。『私はヨセフです。父上はお元気ですか。』兄弟たちはヨセフを前にして驚きのあまり、答えることができなかった」45：3。ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです」：4, 5。：5－9で、「神」のことが5回も語られる。ヨセフはここで、自分の恨み事ではなく神のみわざの事を語り始める。「被害を受けて傷ついた私」について語っていない。自分の身に起こった事は自分を中心にして考えれば不幸でしかなかった。しかし、神の御心と摂理という視点から見ると、私達の人生のとらえ方は、より高い次元（どこにおいても神の支配、御計画、摂理を認める）へと引き上げられる。人間の愚かな失敗、罪の行為がある。不当な扱いを受けた時、相手を恨み憎み続ける人生がある。それは、自分の心を傷つけ蝕む。しかし、もう一つの人生が神によって用意されている。「このような状況を私の為にお許しになった神の御心、意味、御計画は何なのだろうか」と神に問いかける人生がある。それは、素晴らしい事！

神は今、私に何を求めておられるのかと思い巡らす。私が傷ついて、私が悲しい経験をして、私がむかつくという人生に縛られない人生が、神によって用意されている。神がどんな御目的と御計画を持っておられるのかと思い巡らす人生。「主は人の子らを、ただ苦しみ悩まそうとは、思っておられない」（哀歌3：33）とある。神を信頼したい。神は、私達の歩みや私達が傷を受けたり悩んだりする事に無関心な方ではない。私達の身に起こっている事は神の御計画の中で神が許された事（マタイ10：29）。それはなるようにしてなったという運命論や宿命論とは全く違う。御心を行われる神が私達を具体的に扱われるという恵み。そこには神の最善のお考えがある。私達を心から愛される神の計り知れないご計画に裏付けされた御業。「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」（伝3：11）。ヨセフは何度も「神は」と語る。「神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです」：5。「それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました」：7。「だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです」：8。彼の霊的な勝利の秘訣がここにある。すべてを神の御計画という視点で捉えている。ヨセフは後に「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました」（50：20）と語る。神は罪という最も重大な問題をなおざりにされる方ではない。兄達の罪は必ず取り扱われなければならない。しかし、不当な苦しみを受けたヨセフも取り扱われている。神がお許しになる境遇に神の特別なご計画があるという事を学んでいる。ヨセフも簡単に神を認め、兄達を簡単に赦せたのではないと思われる。格闘があった事だろう。ヨセフも私達も、自分の力では人を赦せない。赦すべきと頭でわかって、湧き上がる感情を抑える事ができない。ヨセフが兄達を赦せたのは神による奇蹟である。赦せないと思って自分で苦しんでいたが、赦せるように変えられたという恵み。神の視点で苦しみの意義を捉える恵み。聖霊が私達の内に働かれる恵み。聖書の御言葉の実践は難しいと思うのは、ある意味で正常である。自分の力で守れるものではない。それを神は御存知。それ故に、助け主なる聖霊が与えられている。御言葉と格闘するプロセスが大切。自分の力では御言葉を実行できないとわかり謙遜になり、神に抛り頼み、聖霊の力を経験する。御聖霊の力で苦しみの出来事の視点が変えられる。「あの人のせいで」と、ある人を恨み続ける人生から、「神が」あの事の中にも、この事の中にも深いご計画を持って働かれているという事実を信じる人生を神は与えて下さる。すべてを支配される神を信頼して歩めますように。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」ローマ8：28。 参照：「ヨセフの見た夢」遠藤嘉信著